



ちよっとお茶にしませんか

第11話

鉄好人海外行

駄菓子用小銭で

Cheap Candy with Coin

山本誠志

Masashi Yamamoto

日科情報株式会社 (元) 住友金属工業(株)

予定より早く仕事が終わりました。今回はかなりの田舎町(失礼、非常にローカル色豊かな町)での仕事です。今日はここで泊まります。旅行客などめったに来ないとか。現地の言葉しか通じません。文字も全くわかりません。アテンドしてくれている人も、急用のために帰ってしまいました。「夕食までには戻ってくるから、それまで自由に」との言葉を残して。こんな田舎でひとり、どうやって時間をつぶせばいいのでしょうか。ホテルにチェックインしてしばし休憩の後、その辺をブラブラすることになりました。しばらく行くと、子供たちが何やらおいしそうに駄菓子 Cheap Candy を頬張っています。子供たちに、「一つくれ」とは言えませんよね。近くの本立の下で、その駄菓子をおばあちゃんが売っていました。どう買えばいいのかわかりません。私的には、興味本意で試食したいだけですが。値段もわかりません。紙幣を使うような値段でないことは確かです。ままよと、私はその駄菓子を5つつまみ上げ、ポケットの中のコイン全部を手のひらにのっけて、おばあちゃんの前差し出しました。おばあちゃんが、駄菓子5つ分と思われるコインをつまみあげて、支払い完了です。ここでは、外国人は珍しいとみえ、子供たちはおもしろそうにみていました。私が無事に駄菓子を買ったことにほっとしたようです。ひとつだけ味見して、残りを彼らにプレゼントして次へ。みやげもの屋なんてありません。雑貨屋です。当然、値段の表示もありません。彼らもおもしろげについてきます。結構暇つぶしになりました。

日本でいえば、駄菓子屋で、あめ玉かおもちゃを買うようなものです。外国でのコインの扱いに慣れていません。紙幣で支払いするたびに、釣り銭のコインが貯まります。ポケットはだんだん重くなってきます。

コインといえば、算用数字が入っているのが普通ですが、

その国の文字しか入っていないものもあります。単位もそうです。日本でいえば、穴の開いてない「五円玉」がそうです。外国人は困ります。また、形の大きなコインあるいは見栄えのよいコインのほうが高額とは限りません。

失敗談があります。あるレストランでランチをすませ、支払いの段になりました。おつりがないようにぴったりと支払いしてみようと思いましたが。ポケットからコインを取り出し、請求書の金額通り(?)にテーブルにコインをおいて、ウエーターに「OKか」と尋ねてみました。ウエーターは首を横に振ります。もう一度、テーブルの上に並べ直してみました。やはり「NO」です。わけがわかりません。言葉も通じません。急ぐ旅ではないので、ウエーターに向こうで待ってくれるようにいいました。ここで、紙幣を出しておつりを貰うことは簡単です。コインを前に深呼吸。しばしコインとにらめっこです。コインを裏返してみ、気づきました。コインの大きさと見栄えに惑わされて単位を取り違えていたのです。910円を190円としたような間違いでした。さっそく手を挙げ、先程のウエーターを呼びました。向こうで、ずっと見ていたのでしょうか。笑いながらやってきました。テーブルのコインをみて、私の肩をたたきながら、今度はOKの指サインです。さぞや、おもしろかったでしょうね。忙しい時間なら、叱られていたかも。忙しい時には、いまでも紙幣を出しておつりももらっています。

アテンド付きの旅行では、ほとんど、紙幣、トラベラーチェック、クレジットカードで事足りますが、ローカル色の強い田舎に行けば、無用の長物であることを実感します。

現地の小銭も必要です。小物の買い物では、いつもこの方法で支払いを済ませています。間違いやごまかしもないようです。人によっては解説しながら、小銭の処理もしてくれます。ときには、記念コインが含まれている場合もあります。大事にしるよとも言ってくれます。

旅行者の中には、この国で使われている各種のコインを一枚ずつ記念にほしいというひともいます。急にいわれても、ポケットにすべての種類があるかどうかわかりません。皆さんも1、5、10、50、100、500円玉を一揃いいつも持っていますか。金額的には、問題はありますが、その場で要望に応えるのは、結構と難しいものです。

「小銭を笑うものは、小銭に泣かされる」という諺もあります。いつもは邪魔者扱いしているコインも、コミュニケーションのいい道具になります。外国では、穴の開いたコインは珍しいそうです。